

■橘奈良麻呂 官人。父橘諸兄政権下で出世するに従い、藤原仲麻呂と確執、父の失脚・死でついに決起直前に一網打尽。
たちばなのならまろ
長屋王右大臣 721＝ 藤原不比等と橘三千代の娘多比能を母に、(橘三千代の子)橘諸兄の長男に生まれる。

長屋王の変・ 729＝ 8歳：
・・・・・・ 730＝ 9歳：

・・・・・・ 736＝15歳：この年、父らが橘姓を継ぐことを願い、許される。
藤原四卿没・ 737＝16歳：

・・・・・・ 739＝18歳：
藤原広嗣の乱 740＝19歳：長男誕生。聖武天皇が父の相楽別業に行幸した時、無位から従五位下を授けられ、従五位上に昇叙。
国分寺建設詔 741＝20歳：大学頭に任ぜられた。この頃、父の旧宅に大伴家持らを集めて紅葉の宴を主催。

大仏造立詔・ 743＝22歳：正五位上、
高位高官に昇るにしたがい、藤原仲麻呂との間に確執を生じ、
行基初大僧正 745＝24歳：摂津大夫。難波行幸中の天皇が病気で倒れた際、佐伯全成に謀反の計画をもらし、
・・・・・・ 746＝25歳：民部大輔、
大仏鑄造始・ 747＝26歳：従四位下、
・・・・・・ 748＝27歳：
孝謙天皇・・ 749＝28歳：東大寺行幸に際して従四位上へと叙位を重ねる。侍従を経て、*ついに参議となる。聖武が退位して孝謙天皇の即位し、仲麻呂が一举に大納言に昇進すると、再び謀反の実行を告げるも、全成に拒否され、光明皇太后の大権行使のために皇后宮職を紫微中台に発展改組して、その長官に仲麻呂が就任し、実権を掌握していくことにあせり、反仲麻呂勢力の結集をはかる。
・・・・・・ 750＝29歳：父とともに、宿禰から初の朝臣を賜姓される。
大仏開眼・・ 752＝31歳：但馬因幡按察使に任ぜられ、伯耆・出雲・石見諸国の非違を検断した。
鑑真来日・・ 754＝33歳：正四位下に叙せられ、
・・・・・・ 755＝34歳：自宅で父主催の宴が開かれ歌。兵部卿。父が近侍者に密告され、
聖武天皇没・ 756＝35歳：聖武上皇没とともに、辞職し、
橘奈良麻呂乱 757＝36歳：*死去したことが危機感を増幅させ、右大弁に進むも、いよいよ仲麻呂打倒を決意し、反仲麻呂勢力を集めて、しばしば謀議するうち、仲麻呂に密告され、決起予定日、一党は一網打尽に逮捕され、中心人物は拷問によって杖下に死し、その他多数が流罪に処せられたが、奈良麻呂はその終りが記されていない。おそらく殺されたのであろう。
「万葉集」には、短歌3首が収められ、「続日本後紀」に「橘朝臣奈良麻呂家書4百八十余卷」とみえることから、蔵書家で学問上の造詣の深かったことがうかがえる。